

## 新購入主要文献解題 No. 47

1. 現代漫画大観 全10巻（復刻版） 別冊1
2. 代田収一・田口鏡次郎 編
3. 大空社
4. 2010年

本全集は、昭和3年（1928）に中央美術社から出版された日本初の漫画全集の復刻版である。復刻版出版元の大空社によれば、この全集の特色は6点ほどあるという。①漫画を初めて歴史的視点でとらえていること ②「漫画は風俗世相・政治社会を風刺する」という視点で編集されている ③文学や紀行文の漫画化など漫画表現の可能性を紹介している ④子ども向け漫画の源流ともいえるべき大正期の多色刷り子ども漫画が紹介されている ⑤ギャグ漫画の源流としての海外のナンセンス漫画の紹介がされている ⑥明治から大正モダニズムの時期の風俗世相や政治社会が描かれた漫画が選択されている、の6点である。

1920年代は世界的な同時現象として消費社会の大衆化の第一波が到来した時期であった。その時期に、こういった漫画を歴史的視点でまとめるという全集が刊行されたことは、日本もその第一波の影響下にあったことを物語る。モダン＝近代の心性がまずは再帰性に求められるとするならば、漫画を世相風俗の反映したものにとらえ、明治から大正にいたる時代を俯瞰して考察するという視点にそういった心性が発揮されているといえるだろう。

全一〇巻に収録されたさまざまな漫画やイラストは、その時代の出来事を知る一次資料であることはもちろんだが、当時の人々の関心事がどこに焦点化されていたのかを知ることのほうが実りは大きい。たとえば、第九編に収録されている田中省吾のイラスト「銀座が無警察状態になったとしたら…」では、びっくりしている男性のそばで、洋装で断髪のマダンガール二人がカフェの前で取っ組み合いのけんかをしている様子が描かれてい

る。おそらく、当時のマダンガール論議における「マダンガールは昔の女らしさを失った存在だ」といった「新しい女」言説を視覚化したものといえるだろう。そのような観点からみると、この全集は近代日本をのぞく宝箱のようである。

（笠間千浪）

